

報道関係者各位
 PRESS RELEASE

2016年11月16日
 No.2016-062-1/3

国際交流基金 日米センター／安倍フェローシップ・プログラム 25周年記念シンポジウム 開催のご報告



(撮影: 高木あつ子)

国際交流基金日米センターは昨日、東京都港区の虎ノ門ヒルズフォーラムにおいて、米国社会科学研究評議会(SSRC)と共催で、当センター/安倍フェローシップ・プログラム 25周年記念シンポジウム「激動する世界と我々の未来」を開催しました。

*実施概要は当基金ウェブサイト(<http://www.jpf.go.jp/cgp/fellow/abe/news/symposium161115.html>)よりご覧いただけます。

シンポジウムでは、研究者、政府関係者ら約 350 名が出席する中、安倍フェローを中心とする日米の国際政治経済分野を代表する研究者 15 名が登壇し、ガバナンス、安全保障、貿易、国際関係における 25 年間の変化を振り返り、今後を展望しました。米大統領選の結果が象徴するように、国際社会の様々な分野で矛盾や誤解、分断が広がり、米国の影響力相対化が認められうるものの、地域安全保障や貿易において、日本が主導的な役割を担う機会でもあることが議論されました。

シンポジウムに続いて行われたレセプションでは、安倍晋三内閣総理大臣、キャロライン・ケネディ駐日米国大使、安倍洋子故安倍晋太郎元外務大臣夫人をはじめ、日米の関係者 200 名程度が出席しました。安倍総理大臣は挨拶において、「未来を切り拓く『知』のネットワークを日米で育て、日米が世界の課題をともに解くべきだ」という、故・安倍元外務大臣の日米センター設立理念に触れつつ、日米センターと安倍フェローシップが更なる業績を残すことに期待を示しました。その上で、日米同盟が共により良い世界を作っていくため、課題に挑戦していく旨述べました。

ジョージ・シュルツ元米国務長官は、故安倍元外務大臣について、「外交に関し率直かつ建設的な対話ができる親しい友人であり、徹底して物事を考え抜く方だった」とビデオメッセージを寄せ、同氏の名を冠したフェローシップが 25 周年を迎えることを祝福しました。

安倍洋子夫人は、故安倍元外務大臣が日米センター創設時にシュルツ元米国務長官に書簡をしたため、構想を説明したエピソードに触れ、外交には当事者同士の信頼関係が不可欠で、両氏はその関係を基に日米と世界に向き合っていたと述べました。

なお、特別顧問として日米センターの発展に貢献したシュルツ元米国務長官に、国際交流基金理事長特別表彰が行われました。

■開催概要

日時：2016年11月15日（火） シンポジウム 13:00～17:50 レセプション 18:30～
会場：虎ノ門ヒルズフォーラム メインホール
主催：国際交流基金 日米センター
共催：米国社会科学研究評議会
後援：外務省、アメリカ大使館

■実施プログラム**【シンポジウム】**

- 13:00-13:25 安倍フェロシップ紹介ビデオ上映
開会挨拶（安藤裕康 国際交流基金理事長）
特別ビデオメッセージ（ジョージ・シュルツ元米国務長官／財務長官）
シンポジウムの趣旨・構成紹介 田中明彦（東京大学教授）
- 13:25-14:40 【基調講演・特別対話： 世界の変化と日米パートナーシップ】
基調講演1 岡本行夫（岡本アソシエイツ代表）「東アジアの新たな均衡を求めて」
基調講演2 ジェラルド・カーティス（コロンビア大学名誉教授）「不確かな未来に備える」
特別対話 田中明彦（東京大学教授）×シーラ・スミス（外交問題評議会上級研究員）
モデレーター：添谷芳秀（慶應義塾大学教授）
- 14:50-16:05 【パネル1： 変化する大国間関係とグローバルガバナンス】
パネリスト：
古城佳子（東京大学教授）「国際公共財の衝突-グローバル・ガバナンスにおける国家と私的主体」
高原明生（東京大学教授） 「中国の台頭は日米にとって何を意味するか」
リチャード・サミュエルズ（マサチューセッツ工科大学教授）「日米の安全保障環境における選択と変化」
ディスカッサント： ムタイア・アラガッパ（アメリカン大学特別研究員）
モデレーター： 中西寛（京都大学教授）
- 16:15-17:30 【パネル2： 国境を越える経済・金融システム】
パネリスト： 杉原薫（総合地球環境学研究所教授）「アジア太平洋経済と中国の台頭：歴史的概観」
ミレヤ・ソリス（ブルッキングス研究所上級研究員）「ポピュリズムが勃興する時代の国際貿易の将来」
サーディア・ペッカネン（ワシントン大学教授） 「世界秩序におけるアジアのガバナンス」
ディスカッサント：伊藤隆敏（コロンビア大学教授）
モデレーター：バーバラ・ストーリングス（ブラウン大学教授）
- 17:30-17:50 【ラップアップ・コメント】
ラップアップ・コメント：添谷芳秀（慶應義塾大学教授）
閉会挨拶：メアリー・マクドネル（米国社会科学研究評議会 エグゼクティブ・ディレクター）
- 【レセプション】**
- 18:31 主催者挨拶（安藤裕康国際交流基金理事長）
18:40 特別ビデオメッセージ（ジョージ・シュルツ元米国務長官）
18:45 安倍洋子 故安倍晋太郎元外務大臣令夫人 ご挨拶
19:01 キャロライン・ケネディ駐日米国大使 乾杯ご挨拶
19:35 安倍晋三内閣総理大臣 ご挨拶
20:00 国際交流基金理事長特別表彰（ジョージ・シュルツ元米国務長官）
(シュルツ長官代理：小林百代 故小林陽太郎富士ゼロックス代表取締役会長令夫人に授与)

<国際交流基金日米センターについて>

日米センターは、世界が共通して直面している重要な課題を解決するため、日米両国が世界の人々とともに知恵を出し合い、協力していく必要があるとの認識のもとに、1991年4月に国際交流基金内に設立されました。

日米両国は、強い相互依存関係のもと国際政治・経済において大きな役割を担っています。日米両国の機関や人々には、地球規模の安全保障、世界の安定性、そして広い意味での人類の福祉を確保するパートナーシップの確立を図るために、さらに大きな一歩を踏み出していくことが求められています。

日米センターは、両国の人々が世界中の人々とともに、グローバルな課題、先進工業国に共通の課題や、日米関係にとって重要な課題に対処するための共同プロジェクトを支援しています。

<安倍フェローシップ・プログラムについて>

「安倍フェローシップ・プログラム」は国際交流基金日米センターが行なう事業の中核をなす研究奨学金プログラムです。

日米センターは、1990年に安倍晋太郎元外務大臣が提唱した構想に基づき、翌1991年に設立されました。

安倍氏は日米センター設立直後に亡くなりましたが、安倍氏のイニシアチブを記念して「安倍フェローシップ・プログラム」が誕生しました。

本プログラムは、個人の調査研究プロジェクトに対する奨学金制度です。現代の地球的な政策課題で、かつ緊要な取り組みの必要とされる問題に関する、学際的、国際的な調査研究の増進を目的としています。また、長期的に政策指向的研究または報道に従事する新世代の研究者・ジャーナリストの成長を支援し、そのような政策課題をテーマとして共有する研究者・ジャーナリストの世界的ネットワークに主要なメンバーとして積極的に加わっていく人材の養成を目指しています。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ:

国際交流基金日米センター(担当:安藤、佐藤、諏佐)

Tel:03-5369-6058 / E-mail: Naomi_Ando@jpf.go.jp

●取材に関するお問い合わせ:

国際交流基金コミュニケーションセンター(担当:伊藤、森)

Tel:03-5369-6089 / Fax:03-5369-6044 / E-mail:press@jpf.go.jp